

SEKISUI

CSRレポート(環境)2022

SEKISUI

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

九州積水工業(株)はSDGs実現に取り組みます。

電力会社

再生可能
エネルギー
供給

九州積水
SEKISUI

再生可能
エネルギー
活用



九州積水(ソーラー発電)



九州積水(工場)

再生エネルギー活用100%を目指しています。

再生使用

FY20

FY21

FY25

FY30

5%

20%

50%

100%

九州積水工業株式会社



事業所概要

会社名	九州積水工業株式会社		
所在地	佐賀県神埼市千代田町柳島225-1		
主要製品	硬質塩化ビニル管・継手		
従業員数	96名(2022年4月)		
施設関連(㎡)	敷地面積	生産施設面積	環境施設面積
	158,873	17,291	43,303
工場の歩み	1963年	鳥栖市に設立	
	1964年	日本工業規格(JIS)表示認定	
	1975年	セキスイハイムの組立加工業務開始	
	1980年	FRP複合パイプ(タフポール)生産開始	
	1989年	TPM活動開始	
	1997年	西日本セキスイ工業(株)分社 千代田に新工場建設移転	
	1999年	ISO9002認証取得	
	2000年	ゼロエミッション達成 ISO14001認証取得	
	2001年	ビオトープ開園式	
	2002年	OSHMS本社認証取得 ISO9001(2000年度版)移行認証取得	
	2005年	ISO14001(2000年度版)移行認証取得	
	2006年	佐賀労働局長表彰『優良賞』受賞	
	2007年	(社)佐賀県労働基準協会表彰「無災害事業所(5年間)」受賞	
	2008年10月	サンエス千代田株式会社の組織を九州積水へ統合 平成20年度緑化優良工場表彰『財団法人日本緑化センター会長賞』受賞	
	2012年10月	日本ガス協会/GPP(ガス用ポリエチレン管)認証取得	
	2013年10月	配水用ポリエチレン管JWW認証取得	
	2013年12月	通信会社向け通信立上管生産開始	
	2013年12月	メガソーラー稼動(発電容量 1,402Mwh/年)	
	2014年3月	建材用カラーパイプ・カラー継手生産開始	
	2016年8月	建材用UVストロングパイプ・継手生産開始	
2018年1月	ポリエチレン管生産～梱包ライン近接化		
2020年1月	会所マス生産移管		





九州積水工業(株) 環境方針

2022. 4. 1



九州積水工業株式会社
代表取締役社長 城野 敬悟

九州積水工業は、サステナブルな社会の実現に向けて、企業活動を通じ、「環境」という側面を常に考慮し、事業と環境の調和を目指した持続可能な社会の実現に向けて、よりよい「環境経営」を実践していきます。

1. 企業活動を行う上で、リスク及び機会を考慮し、環境影響評価を行い、その結果に基づき戦略的な環境目的・目標を定め、見直しを行いながら、継続的改善と環境汚染の予防に努めます。
2. 攻める環境管理着手において、抜本的な廃棄物排出の「抑制」と「回収」へ技の強化を行い、3Rからサーキュラーエコノミー(資源の循環)を念頭に環境負荷への軽減に努めます。
3. 地球資源に限りがあることを認識し、効率的な使用、節減に努め省エネルギー活動、再エネ促進に取り組みます。
4. 生物多様性や気候変動・水リスクに配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に取り組みます。

5. 当社は、下記の項目に重点的に取り組み、環境汚染の予防を推進すると共に環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

- 1) 環境汚染の予防 有害物質外部流出「ゼロ」
- 2) 廃棄物削減とリサイクル推進 廃棄物削減 21年度比 1%削減
- 3) 省エネ・省資源の推進 CO2削減 21年度比 1%削減
- 4) 地域貢献活動、環境貢献製品の開発・推進

- 1) 環境方針達成のため環境目標を設定し、行動計画を策定、実施し定期的にその達成度の評価を行いレビューを行います。
- 2) この環境方針を全従業員に周知します。
- 3) この環境方針は、外部からの要求に応じ入手可能とします。



2022年度の環境目標と実績

	目 標	目標値	実績値	評価
省エネルギー	1. 炭酸ガスの排出量の削減 生産量原単位を2016年度比で3.0%削減する。	生産量原単位 2021年度の1.0%削減	1.3%増加	×
廃棄物	1. 廃棄物の発生量の削減 生産量原単位を2018年度比で30.0%削減する。	生産量原単位 2021年度の1.0%削減	6.7%減少	○
	2. 廃棄物の分別徹底と適正処理を100%維持管理する。	適正処理100%	適正処理 100%	○
環境保全	1. 浄化槽水質の管理 浄化槽設備の保全・保守を定期的を実施し、法定水質検査を受けて、水質の維持管理に努める。	検査項目の規制内値の維持(4項目)	4項目すべて規制値内	○
	2. 積水化学のグリーン購入ガイドラインに沿った事務用品の購入を行う。	グリーン購入率 95%以上	グリーン購入率 92.3%	×
自然保護	1. 事業所ビオトープを連活用し、地域住民と共に自然保護活動を実施する。	「ビオトープ観察会」等 年1回以上	1回実施	○
	2. 事業所ビオトープを活用し、定期的な手入れ作業を実施し、従業員の自然保護意識の高揚を図る。	手入れ作業実施 年4回以上	4回実施	○
化学物質	1. PRTR法に基づく「第1種指定化学物質」の排出量・移動量の管理と低減	生産量原単位 2021年度の1.0%削減	10%減少	○

■ PCB使用機器の適正処理を実施

PCB使用機器を国の指定する機関(『日本環境安全事業株式会社』)にて、適正に処理しました。



環境負荷概要

INPUT

原 材 料

エネルギー・水

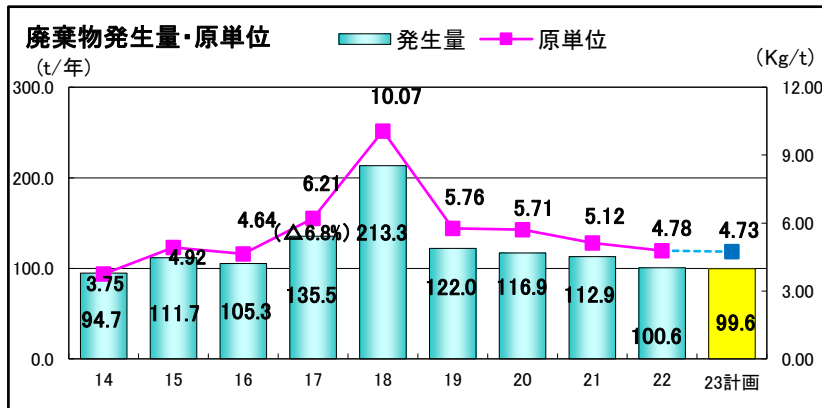
電気	10,689 MWH/年
重油	— KL/年
軽油	43.0 KL/年
ガソリン	2.9 KL/年
灯油	0.7 KL/年
LPG	0.54t/年
地下水	242,640t/年

OUTPUT

排気ガス	SOx(硫黄酸化物)	—
	NOx(窒素酸化物)	—
	CO2(炭酸ガス)	3,229 t/年
PRTR対象	有機錫化合物	2.3 Kg/年
	スチレン	173.5 Kg/年
	鉛及びその化合物	127.4 Kg/年
廃棄物	産業廃棄物	100.56 t/年
	一般廃棄物	—
	リサイクル率	100 %



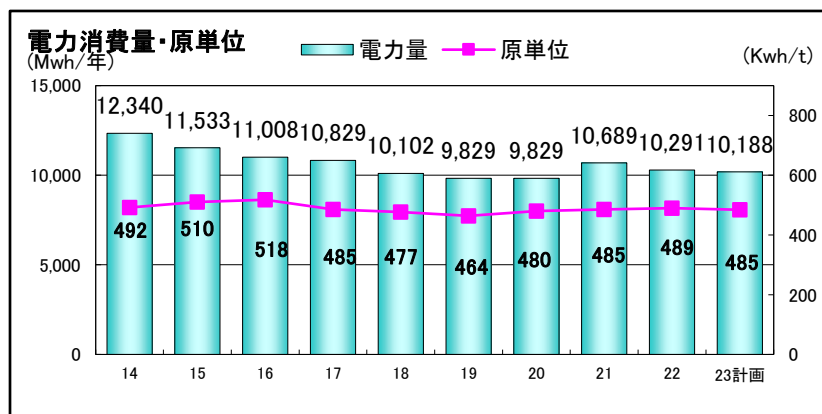
重点活動項目の実績推移



○ 有価物の引取対象品を増やしたことにより目標達成となりました。

(10年度より管理目標を『原単位』へ変更しています。)

$$\text{原単位} = \frac{\text{廃棄物発生量 (Kg)}}{\text{生産量 (t)}}$$

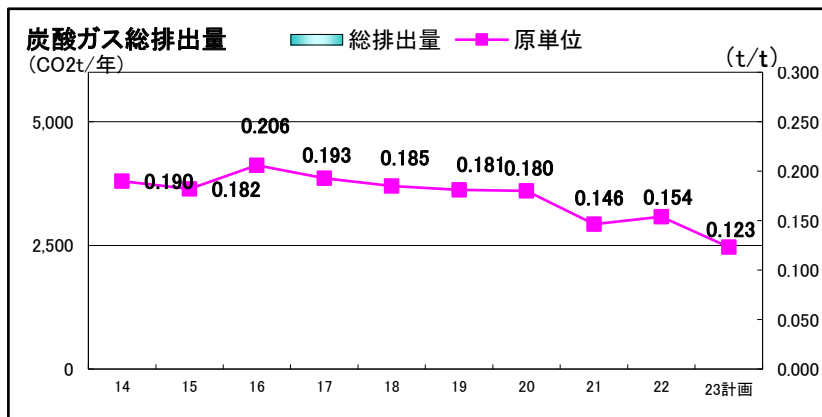


○ 節電プログラム等実施しましたが大型省エネ投資が少なく目標未達でした。

(10年度より管理目標を『原単位』へ変更しています。)

$$\text{原単位} = \frac{\text{電力使用量 (Kwh)}}{\text{生産量 (t)}}$$

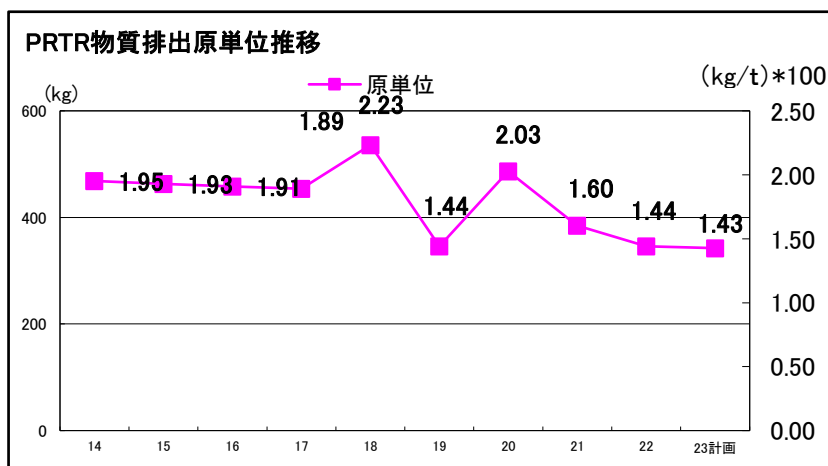
※換算値です。



○ 23年度は再生エネ比率を20% 上乗せし40%とします。2030年までに再生エネルギー活用100%を目指します。

(10年度より管理目標を『原単位』へ変更しています。)

$$\text{原単位} = \frac{\text{炭酸ガス排出量 (t)}}{\text{生産量 (t)}}$$

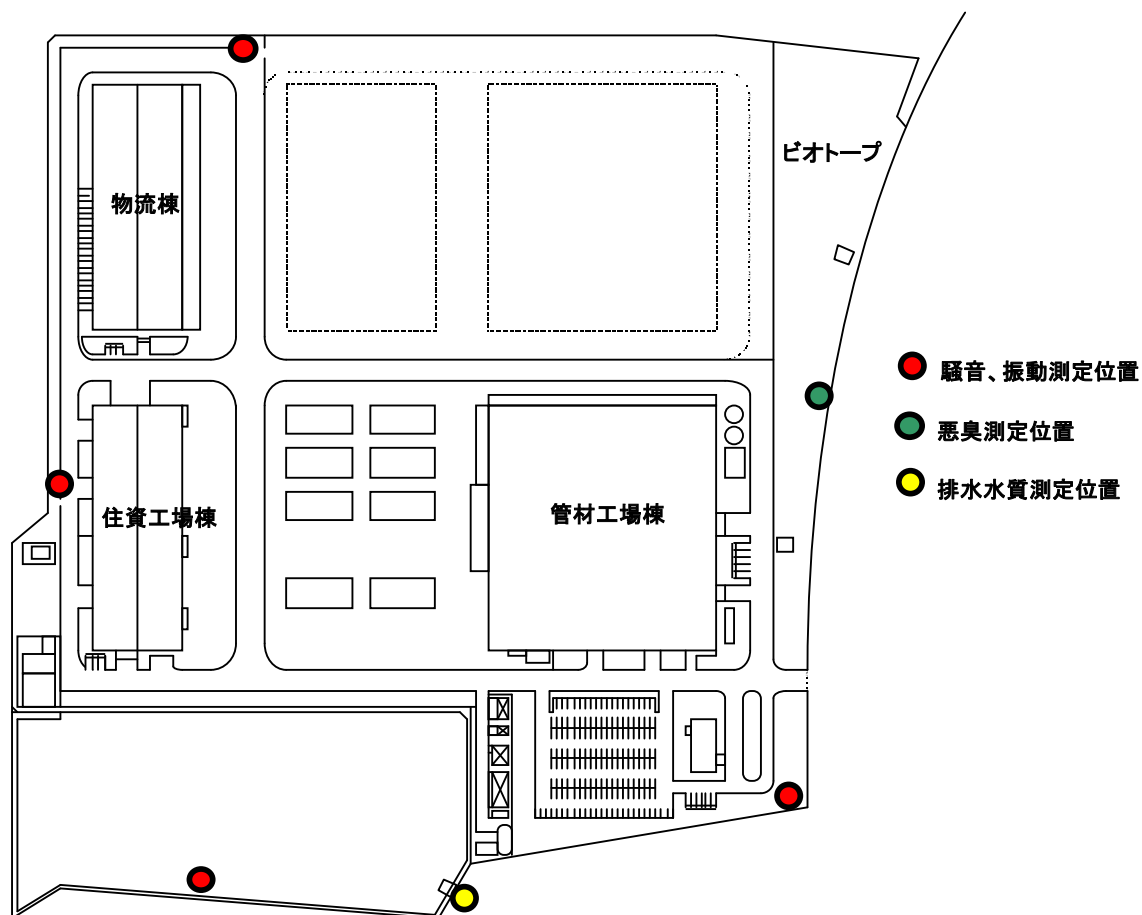


○ PRTR対象化学物質の2018年度活動として、場内リサイクルの徹底を図っていくことと、一般管の脱鉛配合の推進を行い、さらなる削減を目指します。VOC対象のスチレンも複合材部門の生産効率向上により削減に貢献していきます。

(10年度より管理目標を『原単位』へ変更しています。)



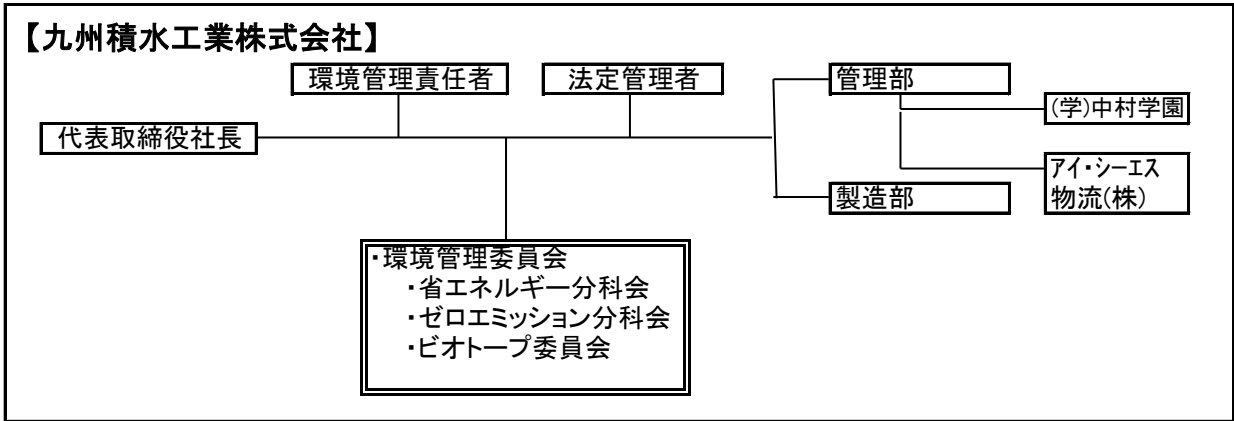
法規制項目測定位置及び測定データ



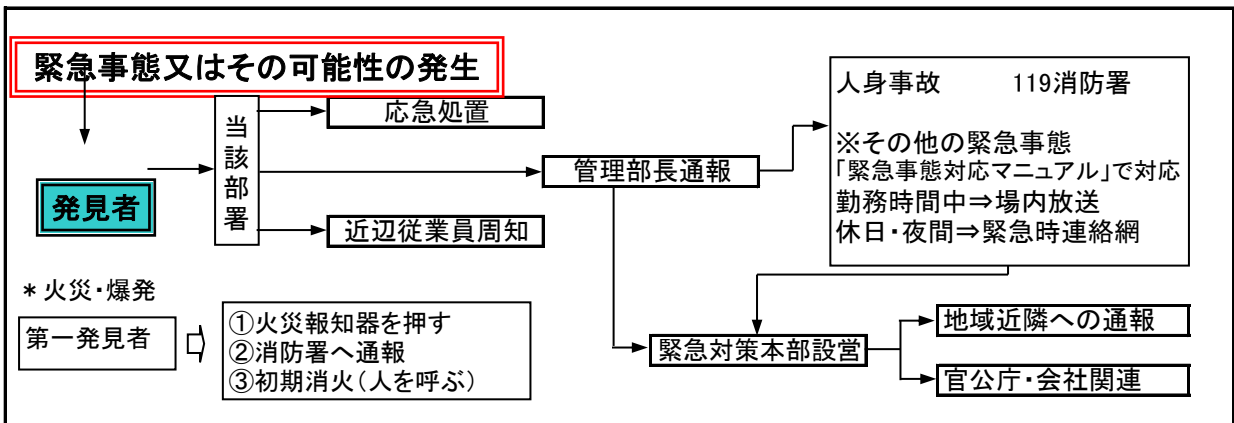
	規制法	項目	対象	要求事項	単位	法規制	条例	実績(最大値)	評価
水質	水質汚濁防止法	排水基準	工場排水	pH(水素イオン濃度)		5.8~8.6	5.8~8.6	8.0	○
				BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	160	160	1.5	○
				SS(水中懸濁物質)	mg/L	200	200	1	○
				Pb(鉛)	mg/L	0.1	0.08	0.01未満	○
騒音	騒音規制法	敷地境界騒音	空気圧縮機 射出成型機 送風機	朝、夕	dB	50	50	50	△
				昼	dB	60	60	59	○
				夜	dB	50	50	50	△
振動	振動規制法	敷地境界振動	空気圧縮機 射出成型機	昼	dB	60	60	40	○
				夜	dB	55	55	29	○



環境管理体制



緊急事態対応体制



2022年度の環境目的・目標

	目的	目標値
省エネルギー	1. 二酸化炭素の発生量抑制の為、省エネルギーの方策をたて継続的削減を図る。	21年度比 生産量原単位1.0%削減 0.152CO ₂ t/t⇒0.150CO ₂ t/t
廃棄物	1. 産業廃棄物の外部排出を減少し地球環境改善に貢献する。 2. 廃棄物の分別徹底と適正処理を100%維持管理する。	21年度比 生産量原単位1.0%削減 5.12kg/t⇒5.07kg/t 適正処理100%
環境保全	1. 調達先、製品のグリーン度を調査して、積水化学のグリーン調達基準に沿った原材料、部品を調達する。	グリーン購入率 95.0%以上
自然保護	1. 事業所ビオトープ等を活用し、地域住民と共に自然保護活動を実施する。 2. 事業所ビオトープを活用し、定期的な手入れ作業の実施により、次世代育成と地域社会への貢献を推進する。	「生き物観察会」等 年1回以上 「ビオトープ池の清掃・外来種除去」等 年4回以上
化学物質	1. PRTR法に基づく「第1種指定化学物質」の排出量移動量の管理と低減。	21年度比 生産量原単位1%削減



ビオトープのあゆみ

ビオトープ活動を通じて環境保護活動の意識高揚を図っています。

2000年9月
工場敷地内北東部



2001年2月
クスノキ、ツルヨシ植樹
フナ、ハヤ放流



2001年4月
ビオトープ開園式、一般開放
記念植樹51本

2001年7月
廃棄電柱で
手作りの橋架け



2002年2月
千代田東部小学校
総合学習で来園



2002年8月
ヒクイナの孵化(4羽)



2003年1月
千代田町緑の少年団と植樹
千代田中部小学校の校長先生も参加



2019年8月
佐賀大学生
ビオトープ見学

『郷土と自然に親しむ会』(2005/8/20)
千代田町民グループ「郷土と自然に親しむ会」メンバーと九積ビオトープ委員が夏の自然体験イベントを開催しました。



2005年6月
除草作業



現在、アラカシ・スズメノエンドウなど100種類を超える植物や、ヒバリ・コチドリなど30数種の野鳥たちが集うようになりました。

2007年5月
池の清掃



老朽化したフェンスを
改修しました。



オムラサキの幼虫を
飼育予定です。



「水と緑と」ビオトープ物語

2005年12月に、ビオトープ開設から現在に至るまでの活動や、植樹祭等イベントが記録されたDVDが完成しました。当社の環境保全の取り組みの一環であるビオトープ創造活動のPRとして、来社されたお客様や工場見学時に上映しています。



社会・SDGs 貢献活動報告書

1. 活動名 (タイトルや内容)

ビオトープで自然観察会を開催 (地元小学校の課外授業)

2. 活動日時

単日開催 2022 年 10 月 7 日 金 曜日 9:30 ~ 11:30

3. 活動場所 (場所名、所在地) * 都道府県名もご記入ください

九州積水工業ビオトープ

4. 参加者 (内容・人数)

①従業員	4	人	
②従業員の家族		人	(内、子どもは <input type="text"/> 人)
③地域の参加者	14	人	(千代田東部小学校2年生12名、教員2名) ← 団体名
④その他	3	人	(観察会講師、佐賀県森林整備課、NHK各1名)
合計	21	人	

5. 活動内容 (レポート)

10月7日(金)、千代田東部小学校2年生を招いて、工場の敷地内にあるビオトープで生きものを捕まえ、観察・スケッチを行うビオトープ「ふるりの森」生きもの観察会を開催しました。

参加者は小学校14名(児童12名、教員2名)と当社4名、その他3名(合計21名)。当日は朝からあいにくの雨で急遽雨の日プログラムに変更し、無事観察会を実施することができました。昨年同様、佐賀県森林整備課様から県が取組む「森川海人っProject」を紹介され、つづいて昆虫博士の川那部先生から昆虫についての種類や役割などクイズを交えての説明がありました。そして、子供たちは3つのグループに分かれてビオトープへ移動。網とカゴを持って雨の中、芝生の上や枯れ木の下などみんなで一生懸命昆虫を探しました。その結果、バッタやキリギリス、コオロギなどのいろいろな生きものを捕まえることが出来ました。その後捕まえた昆虫の観察・スケッチタイム、脚の数や羽根の枚数など細かく観察してスケッチしました。

今回地域の子供たちに生き物に直接ふれることで自然の大切さを実感してもらい、生きものが生息する環境の大切さを学んでほしいです。これからも継続して活動を行うことで、「地域」と「生き物」のつながりを大切にして、自然環境の大切さを子どもたちに伝えていきたいです。

P S) 今回の活動のようすを広く一般の方にご覧いただきたくNHKさんに取材にきていただきました。当日の夕方のニュースにて放送されました。

628

6. 活動の様子 (写真)



1. 活動名 (タイトルや内容)

佐賀県とサガテレビ共同による「アクトクリーンSAGA (有明海クリーンアップ作戦)」に参加

2. 活動日時

単日開催 2022 年 11 月 19 日 土 曜日 8:30 ~ 10:00

3. 活動場所 (場所名、所在地) *都道府県名もご記入ください

佐賀市東与賀海岸 (干潟よか公園)

4. 参加者 (内容・人数)

①従業員	6	人	
②従業員の家族	3	人	(内、子どもは 2 人)
③地域の参加者		人	() ← 団体名などを記入
④その他	11	人	← (積水化学工業環境LL九州支店、九州セキスイ商事イン
合計	20	人	← 記入不要 (自動で計算されます)

5. 活動内容 (レポート)

有明海クリーンアップ作戦とは有明海はさまざまな生物がすみ自然の宝庫でありこの宝の海を守るために佐賀県、福岡県、長崎県、熊本県の有明海沿岸 4 県が一つになって実施している海浜清掃活動です。毎年漁業関係者を中心に多くの方が参加されます。当社でもり養殖資材を製造販売しており有明海の恩恵を少なからず受けています。清掃活動を通して海の大切さを考え、有明海を美しい海に戻す取り組みに参加しました。

本来は 8 月開催予定でしたが、コロナによる影響で延期となり 11 月開催となりました。当日は天候に恵まれず少雨の中開催でした。防寒対策、感染症予防対策を十分に行い、無事に清掃活動を終わることが出来ました。九州積水工業は今年 2 回目の参加で社員 9 名、社外 11 名 (積水化学工業環境LL九州支店、九州セキスイ商事インフラテック、積水リース、池田春樂園、服巻商事、ESP) 合わせて 20 名全員でゴミ回収しました。昨年は 12 名参加でしたので参加者が増えました。

沿岸には枯れ枝、ビニール袋、ペットボトル、発砲スチロール等のプラスチック品の漂流物が多くあり、有明海沿岸のゴミの回収量は約 100 kg となり今後も継続して清掃活動が必要だと感じました。また、来年度も積極的に環境保全活動に取り組み、将来きれいな有明海を次世代に引き継いでいけるように活動を続けていきたいと思ひます。PS 今年は有明海と波戸岬 (玄界灘) に分かれての同日開催でした。参加者の希望があれば別の会場参加も検討していきたいです。

632

6. 活動の様子 (写真)

<p>・清掃活動開会式</p> 	<p>・清掃活動の様子</p> 
<p>・収集したごみ</p> 	<p>・集合写真</p> 

社会・SDGs 貢献活動報告書

1. 活動名 (タイトルや内容)

使用済み切手等の寄付 (寄付先 : 公益財団法人日本郵趣協会)

2. 活動日時

単日開催 年 月 日 曜日 ~

3. 活動場所 (場所名、所在地) * 都道府県名もご記入ください

・同社

4. 参加者 (内容・人数)

①従業員	4	人	
②従業員の家族		人	(内、子どもは <input type="text"/> 人)
③地域の参加者		人	() ← 団体名などを記入
④その他		人	()
合計	4	人	← 記入不要 (自動で計算されます)

5. 活動内容 (レポート)

気軽にできるSDGs 活動として始めた使用済み切手の回収

今回公益財団法人日本郵趣協会さまへ使用済み切手を寄付しました。最初は一人で始めた活動で、ペーパーレス化が進み郵便の量も減っている状況でどれくらい集まるか不安でしたが、10月3日に全社朝礼で使用済み切手の回収協力を呼びかけたところ、郵便が多く届く購買係・経理係の方に回収を協力していただき半年かけて約1,000枚(260g)集めることができました。各部署の協力を得てなんとか形になる量を集めることができました。今後は活動を広く知っていただき取引先や関係者に広げていきたいです。

「手紙を書こう!プロジェクト」は、郵便切手文化の発展向上に資するとともに潤いある社会形成を推進するため、公益財団法人日本郵趣協会が実施する社会貢献・地域支援事業のひとつです。

手紙コミュニケーションの楽しさを体験することで、社会的ニーズとその社会的波及効果が高いことから「手紙を書こう!プロジェクト」に賛同することにしました。小さなことから、少しずつ、波紋が広がるように今後も前向きに取り組んでいきたいです。

#REF!

6. 活動の様子 (写真)

・回収箱



・集まった使用済み切手



・手紙を書こうプロジェクト



○ 写真の説明 : 回収箱 (左上)、集まった切手 (左下)、手紙を書こうプロジェクト (右側)